世界の研究助成機関間の能力開発と連携の原則に関する宣言（担当仮訳）

前 文

グローバルリサーチカウンシル（GRC）の長期的な目的は、現在そして将来の GRC 参加機関ならびに世界の研究コミュニティの利益のために、機関、国、地域及び大陸を超えて、その連携と能力を強化することである。

「能力（capacity）」とは、研究助成機関が自らゴールを決め、公平、透明かつ効率的な方法で、加速するグローバルな状況を踏まえて資源を管理するとともに、科学の進展に対応し将来の方向を形作る組織的・技術的な能力や関係性のことをさす。

「連携（connectivity）」とは、能力強化のための連携と、世界の科学の一層の促進・支援につながる機関間のネットワークの双方を指す。GRC のネットワークは、国内には相互に学べるような類似の機関がないが、それぞれの国の権限で同様の任務を行っている各国の機関を結びつける。その意味で、GRC のネットワークは研究助成機関が政策の方向性を検討し説明責任を果たすため、相互に学びあう枠組みを提供している。

世界中の研究助成環境と研究の実施方法は急速に変化している。歴史的に研究にあまり投資がされてこなかった国々において、公的な研究の価値が認められるようになり、多くの政府が研究予算を増やし、研究行政を強化している。研究支援を長く行ってきた国でも、既存の助成機関の改革が進められ、その役割を変更し、新しいプログラムの方向性を示すなど変化が起こっている。また、研究の性質の変化（例：国際的・複合領域的で多くの関係者が関わる共同研究の増加）及び、研究のガバナンスがどのようになされるべきか[1]、ということに対する期待の高まりが、研究助成機関に課題と好機の両方をもたらしている。

「研究・教育の能力構築のためのアプローチに関する宣言」（2015 年）を推進する上で、GRC の参加機関は、各機関が今まで果たしてきた貢献を認識している。また、助成機関間の連携と能力強化のためのより体系的、協調的で連携した活動を通じて、研究を共同で支援する新たな機会も認識している。

---

[1] メリットレビューや研究公正、女性の平等と地位に関する GRC の宣言文は研究のガバナンスを改善するための最近の成果例である。

以上のことから、第 6 回 GRC 年次会合参加者は以下の原則を承認した。

原 則

目的の共有と自発的な連携

能力強化のために研究助成機関が提案する自発的な行動は、共通の利益を特定し、相互に学ぶために時間と資源を投じたいという意図から生じる。目的の共有と自発的な連携を追求するというこの原則は、新たなアクションが生まれる礎石でありつづける。

長期的・持続的な個人及び組織レベルでの学習

能力強化の活動と連携を強化する取組は、長期的には、個人及び組織全体に利益をもたらすべきである。GRC 参加機関は、自律的で適応力があり、かつ成果に基づいて評価されるような行動計画とメカニズムを構築すべきである。

透明性と新たな知識・ツールへの自由なアクセス

GRC 参加機関はそれぞれ、社会に対する説明責任を果たし、透明性のある行動をとるべきである。また、蓄積された知識やツール、教訓が現在及び将来の GRC 参加機関全てに可能な限り共有されるべきである。

包括的な研究と世界の研究助成機関を目指して

各機関は、研究コミュニティの現在及び未来の要求に応えるだけでなく、議論を促し、研究を行い、成果を利用する、社会の鍵となる関係者の要求にも応えるべきである。具体的には、既存のネットワークを深めるとともに、研究や研究マネージメントのコミュニティ以外の関係者にも機会を広げるべきである。同様に、多国間の能力強化のための取組では、歴史的に資源やインフラの資源が整わない機関を入れるとともに、支援すべきである。

行 動

GRC 地域会合で確認された、実現可能性のあるいくつかの選ばれた行動を以下に挙げる。これらの行動は、５つの地域会合のうち３つ以上の会合で、能力と連携の強化のために有効なトピックであると認識されたことに基づき、オタワの年次会合で優先課題とされた。以下にまとめられたトピックと実現可能な行動の要約は、GRC 参加機関が能力強化の機会を組織的に探り、科学の進展に対応し、将来の方向性を形づくることを促すためのものである。

オープンデータに係る政策と施策

オープンデータは科学上の発見を加速させ、研究の公正性を維持する機会を与える。GRC 参加機関はオープンデータの政策を採用・実践しているが、検索が容易で、アクセスしやすく、相互運用と再利用が可能なデータを普及させるという共通の課題がある。参加機関

は、新たな取組を比較して学ぶとともに、トレーニングやアウトリーチ活動を連携をして行うためのユニークな機会を有していくことに合意した。

共同研究イニシアチブの設計と評価

政府や学術界及び社会の関心に応えるとともに、研究が産業のノベーションに拍車をかけたり、公共政策に生かされたり、社会的課題に対応したりしうるものであることから、多くの GRC 参加機関は学術界とそれ以外の者との連携に助成している。参加機関からは、そのような事業設計が、成果に与える影響と、学習と比較を容易にするような評価のベストプラクティスを、よりよく理解したいとの意向が示された。

国際的なパートナーシップとジョイントプログラム

GRC 参加機関は人の流動性と研究協力を促進するために国際的プログラムをますます多く行うようになったが、そのような事業に関する経験、充実度、普及度は地域によって異なる。GRC 参加機関は、管理面の煩雑さを減らし、参加への障壁を取り除き、協力を支援する取組を検討し、採用することで国際的な研究協力を改善しうると認識している。

戦略的な計画と展望

GRC 参加機関は、新規課題を特定し、研究投資先を方向づけるため、戦略的立案と未来予測の手法を用いている。科学技術の進展が国際的な情勢によって決まる傾向が進むとともに、世界的な課題への取組は協働作業に値することから、共同での分析や計画が増えている。GRC 参加機関は、トップダウンとボトムアップ双方の戦略的立案と将来予測に関する専門知識や経験の共有を通して、国力を強化し、国際的な研究を支援する機会を確認した。

研究マネージメントとプログラム伝達の施策と方法

強固な政策と情報システムによって、GRC 参加機関は研究コミュニティを支援し、説明責任と将来予測のための研究マネージメントデータを利用しうる。GRC 参加機関はベストプラクティスの一層の共有と採用を奨励した。さらに、技術基盤が共同研究（例：オープンサイエンスの支援基盤）や研究マネージメント（例：研究活動のデータ共有、国際的なピアレビューの共有ポータル）を支援しうる将来の分野を明らかにしていくことを奨励した。

オタワでの年次会合を終えて、GRC 参加機関は提案された行動のいっそうの発展に務めるよう求められている。「透明性と新たな知識・ツールへの自由なアクセス」の原則にあるように、ワーキンググループや共同プロジェクトに入っている GRC 参加機関は、適切な GRC の手続きを通してとられた措置や進捗に関する情報を共有することが推奨される。